

第2回小金井市地球温暖化対策地域推進計画改訂検討委員会 会議録

日時：平成26年 9月24日(水)14:00～16:00

場所：小金井市商工会館3階萌え木ホールA会議室

<出席者>

【委員】(名簿順、敬称略)

小野 郁夫、木下 夏江、犀川 政稔、高橋 賢一、大貫 和宏、塩野 正明、信山 重広

【事務局】 環境政策課長 大関 勝広、環境係長 碓井 紳介、環境係主任 中澤 秀和、
環境係副主査 荻原 博

【コンサルタント】(株)サンワコン：今井 重行、森 洋市、宮越 節夫

【傍聴者】なし

<次 第>

1. 開 会

2. 議題

(1) 前回議事録について

(2) 目標数値について

(3) 重点対策について

(4) その他

3. 次回委員会日程について

4. その他

<配布資料>

- ・資料1 目標数値について
- ・資料2 重点対策について
- ・その他 他自治体との計画値の比較等

< 1. 開 会 >

高橋座長 定刻ではありませんけれども、皆さんお揃いなので、始めたいと思います。それでは本日の議事次第にあります通り 3 点あります。よろしくお願いいたします。

< 2. 議 題 >

(1) 前回議事録について

高橋座長 最初に、前回議事録についてご説明いただいて、ご確認いただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

荻原副主査 はい。それでは、前回議事録につきましては、事前にお配りさせていただいているところなんですけれども、ご自身の発言のところ、修正点がございましたら、事前にご連絡してくださいということでお伝えしてありますが、小野委員の方から、一か所訂正が入っているところがございます。それ以外の方のご連絡はなかったんですけれども、今もしこの場で修正点がございましたら、言っていただければと思いますが、いかがでしょうか。

信山委員 すみません。あと名前がまたこちら間違っているようなので訂正をしたい。

荻原副主査 すみません。こちらの方は訂正させていただきます。

高橋座長 お名前だけは間違えないように。

荻原副主査 はい、すみません。そうしましたら、議事録の方は、これで修正を加えたものを公開ということでよろしいでしょうか。

犀川副座長 その、小野さんが修正されたところを教えてくださいますか。

荻原副主査 はい。小野さんの修正点ですけれども、28 ページの下から 8 行目です。最後、CO2 の排出までが生きていて、そのあと消していただいて、「CO2 の排出係数として公表されていますよね。」というように、修正していただければと思います。

(2) 目標数値について

高橋座長 それでは、議題の 2 番目の、目標数値ということで資料 1 に沿って説明をお願いします。

サンワコン それでは、お手元の資料 1 についてご説明申し上げます。まず、資料 1 ではですね、計画の目標についてということで、前回も少し議論していただいたんですけれども、今回、改訂するにあたり、その目標値、あるいはその目標の考え方、そういったものをどういう風に行うかということで、この資料をまとめております。まず、東京都の計画目標指標が変更になったということで、その説明を行います。

平成 26 年、今年の 3 月に、東京都の省エネルギー目標というかたちで公表された資料がございまして、東京都では 2020 年までに、都内の温室ガス

排出量を 2000 年比で 25%削減する、という目標を掲げているんですけども、実際にそのエネルギー消費量を見ますと、減少しているにも関わらず、都内に供給される電気の排出係数の悪化、図 1 ということで下に書いておるんですけども、図 1 により CO2 の排出量が増加しております、このことから、都は目標指標を転換しました。それが次の図 2 でございます。

で、それをもう少し詳しくご説明いたしますと、東京都では CO2 を指標にした削減計画では、将来の電源構成が不透明であるため、目標値としては困難と判断しました。今、原発が全部止まっておりますけども、原発が動いている場合と動かない場合で排出係数が大きく変わっておりますので、将来の電源構成が、今のところ見通しが立ちません。このため、この CO2 を指標にしますと、原発が動くと下がるし、原発が止まると上がるということで、指標がふらふらするので、この指標をエネルギーに置き換えていくということです。ただ、一方、事業者や都民の方々で、省エネや節電の効果が明確になるように温室効果ガス 25%削減は変えずに、新たな目標として 2020 年までに、都内のエネルギー消費量を、2000 年比で 20%削減するという、エネルギー消費を指標とした目標を掲げ、実効性ある気候変動対策、それから省エネルギー対策に取り組んでいくということで、指標をエネルギーに変えましょうということです。

それで、その下の図 1 のグラフですけども。2000 年から 2012 年までの電気の排出係数を見ますと、下のグラフのようになっております。2003 年に山があって、2007 年にまたひとつ山があって、それから 2011 年以降、右肩上がりというか、ずっと排出係数が上がっております。2003 年の排出係数の増大は、東京電力の検査・点検等の不正問題に起因する、原子力発電所の稼働率の低下によって上がったものです。それから 2007 年は、新潟県の中越沖地震による柏崎原子力発電所の停止の影響。それから 2011 年は、東日本大震災による、福島第一原子力発電所の停止の影響。その後もずっと停止しておりますので、火力発電を中心とした発電に切り替えたということで、2012 年もさらに上がっております。このように、排出係数が上がったり下がったりという状況です。

それから次の 2 ページ目をご覧になっていただきたいんですけども、東京都のエネルギー消費量は、省エネルギー対策や、エネルギーの効率的な利用が進んでおり、確実に減少しております。で、ここでも同じように運輸部門、家庭部門、業務部門、産業部門という風に色分けをしておりますが、これで見させていただきますと、エネルギーとしては全部門で見ますと 2010 年には 2000 年比で 10%減少しております。その内訳を少し見ますと、運輸部門がマイナス 34%、産業部門がマイナス 27%と、大きく減少してありますが、家庭部門はプラス 9%、それから業務部門はプラス 6%というかたちで、逆に増大しています。

次にその下の図 3 ですが、2010 年度までの削減の見通しを見ていきますと、2000 年から 2010 年まで減少傾向です。結果的にこれは毎年 1%ずつ、減少しているかたちになるんですけども、20 年間でマイナス 20%という計画で、2010 年度に 2000 年に比べて 10%減少しております。2000 年、2010 年、2020 年を直線で引いてみますと、毎年 1%ずつ減少していくと、20%に達するというかたちの勾配になっているんですけども、2010 年は実績値ですので、それを延長していきますと、計画的に到達するというかたちになっています。

それで、次の 3 ページ目、今、テラジュールという単位でエネルギーの説明をいたしましたけども、そのジュールの説明を 3 ページの上にちょっと書いております。例えば 100 ワットの電球を 1 秒間点灯すると、100 ジュールになります。それからジュールの単位は 1000 倍、かける 1000 した、1000 ジュールがメガジュール。それからまたさらに 1000 倍するとギガジュール。それからまたさらに 1000 倍の大きさがヘキサ。さらに 1000 倍の大きさがテラジュールということで、今テラジュールという単位で申し上げましたけども、ジュールに換算しますと、1 兆ジュールということになります。

次に小金井市の排出量の推移ということで、温室効果ガスの排出量の推移を見てみます。これは前回もお示ししておりますが、この温室効果ガスのうちのほとんどが二酸化炭素になっておりますので、二酸化炭素でグラフを作ったものになります。小金井市は前回もご説明いたしましたように、産業の割合が非常に少なく、家庭部門、業務部門が多いという構造になっております。それで、例えば 2000 年を 100 とした指標で見ていきますと、家庭部門は 134 ということで、34%増し。業務部門が 24%増しというかたちになり、運輸部門が 2000 年を 100 としますと 66%に下がっております。このような構造でございます。

そして、全体の量を下の棒グラフで見ていただきますと、2000 年と 2006 年がほぼ同じというかたちになっておりまして、前回の計画ではこの 2006 年を基準年といたしまして計画を作成しております。で、これは二酸化炭素で換算した排出量の推移であり、2007 年、2011 年に増えております。実際には、これは電気の排出係数などに引っ張られるものですから、その次の 2 ページ目を、表 2 を見ていただきたいんですけども。今度これをエネルギー消費量でこの推移を見てみると、先ほどのエネルギーの単位、テラジュールを使って同じように書いておりますけども、0 が 3 つ少ないぐらいの値になっております。で、これは小金井市だけですので、2000 年からの推移を下でのグラフで見ていきますと、それほど先ほどの二酸化炭素ほどでこぼこしてはるわけではなく、若干、2000 年から見ますと 2002 年、2003 年のあたり、少し高いところがありまして、2006 年下がって、2007 年上がっているというかたちになっています。先ほどですと、2011 年がかなり大きく上がっ

ていたんですけども、エネルギーで見ますと、むしろ下がっているという形になっています。また、エネルギーで家庭部門、業務部門、運輸部門を比べますと、2000年を100とすると、家庭部門は106ということで、6%の増加。で、業務部門が95ということで、5%の低下。運輸部門が62ということで、62%、約4割の減少というかたちになっております。

この関係を次の5ページ目で折れ線グラフで比較をいたしました。グラフが3つ並んでおりますが、1番上がCO2排出量。真ん中のグラフがエネルギー消費量。下がエネルギー消費量とCO2をひとつの表にまとめたものという形になっています。CO2で見ますと、家庭部門の占める割合が高いので、家庭部門が1番上の値になります。それから、業務、運輸という順番です。この1番上のグラフと2番目のグラフの家庭部門を見ていただきますと、グラフの形が違っているのが分かるかと思えます。これはCO2の排出係数の影響を受けて上グラフが上がったり下がったりしているのに対し、下グラフはエネルギー消費量なので、エネルギー消費量が増えないと上がらないというかたちになっています。この関係を1番下のグラフで見ると、CO2のグラフは2007年と2011年に上がっておりますけども、エネルギー消費量のグラフは2006年から2011年にかけて、ゆるやかに減少してるといようなかたちになっております。

それでは、この小金井市においてエネルギー消費も最も大きい、家庭部門に限ってCO2の排出量でグラフを作ってみました。これは、今、算出の根拠にしております多摩地域の温室効果ガス排出量報告書から作成していますが、二酸化炭素の排出状況の結果しか公表されておりませんので、本当はエネルギーの消費量そのもので比較したんですけども、CO2の排出状況しか無いので。どれぐらい電気の割合があるのかっていうのを見たものが、図8になります。家庭部門も同じく2000年から見ていきますと、2007年と2011年にCO2排出量が大きくなっています。このうち、このグラフの最終年度である2011年の構成比を円グラフにしたものが図8になっています。これで見ますと電気の割合が67%ということで、6割強を占めてはいますが、ただ2011年の電気の排出係数が大きかったのも、6割ぐらいは電気による排出量というかたちで見ることが出来るかと思えます。従いまして、家庭部門においては電気の占める割合が大きいということが分かります。

その次に、家庭部門のエネルギー消費を、人口との比較で見たものが、7ページの図9になります。ここで、2006年から2011年までの市の人口を見ますと、2006年には10万9000人であったものが、2011年には11万3000人と増加を続けております。その増加率について2000年を100とした指標で見ますと、2011年は103ということになります。上の表の左側の表の、右からふたつ目にエネルギー消費量がありまして、これも2006年から見ていただきますと、1942から1922ということで、徐々に減少しています。と

ころが、CO2で見ますと、138から164と増加になっています。この関係を下のグラフで見ますと、人口を、2006年を100とした指標で見ますと、人口は少し、103と増大。今度、ひとりあたりのエネルギー消費量に直したもので見ますと、2006年が100とすると、ひとりあたりの消費量は96まで下がっています。それから、ひとりあたり、エネルギー消費量そのものは2006年を100としますと、99ということで横ばい。それから、CO2に換算いたしますと、2006年を100とすると、2011年が119というかたちには上がってくるということが分かります。従いまして、結論としてエネルギー消費量はそんなに増えていないということが、分かりました。

それで、このような背景をおきまして、その次の8ページ目、目標値の検討ということで、現計画の削減目標に対して新たな削減目標を作成してみました。現計画では、この前もご説明したように、2006年、平成18年を基準にいたしまして、2020年までに二酸化炭素を27%削減する目標としています。今回、新たな目標として、先ほどの繰り返しになるんですけども、東京都が温室効果ガス削減25%の目標をそのまま変えずに置いておいて、2000年比でエネルギー消費量を2020年までに20%削減しというかたちになっています。これは1%ずつ削減すると20年間で20%の削減になるというかたちになっています。それから、これと同じように小金井市につきましては、温室効果ガスの削減目標は27%として置いておき、2020年までに市のエネルギー消費量を2006年比で14%削減しますというような削減目標を設定してはどうかという案を作りました。東京都の中には小金井市も含まれておりまして、東京都は2000年からすでに1%ずつ現実として下がっておりますので、これを延長していきます。2006年を基準といたしますと、あと14%削減すればいいということになりますので、市としては、2006年を基準にして、あと14%を削減しますというかたちで、削減目標を作成いたしました。

で、次の9ページ目ですけども、そうしますと今度、削減量としていくらになるかということなんですけども、現在の計画では、2020年までの二酸化炭素の排出量を計算いたしますと、総排出量として203キロトンまで抑制しますということで、2006年からの差し引きで74キロトンのCO2の削減ということになっています。これに対しまして新たな削減目標ですが、下のグラフのように、2006年から2020年まで、14%削減というグラフになっております。で、ここでちょっと訂正がございまして、このグラフの中に2020年と書いております数字は、2,928とグラフの中に書かれている数値なんですけど、これちょっと間違いでございまして、3,214に訂正をお願いします。そうしますと、14%は合ってるんですけど、この計算が間違っておりまして、これに基づきまして、基準年の排出実績、そのグラフの5行ぐらい上の方に、基準年度の2006年のエネルギー消費量は3,737テラジュールであり、2020

年には、2,928 となっているのが、3,214 テラジュールまで削減するという形に修正をお願いいたします。それに伴いまして、新たな目標という、その網掛けをしてあります中の数字の削減量が 809 テラジュールとなっておりますのを 523 テラジュール、目標値が 2,928 となっておりますのが、3,214 テラジュールと訂正をお願いいたします。

エネルギーの消費量で見ていきますと、このように目標値ならびに削減率が定まりますので、このような形でご検討いただきたいと思います。

それから、お手元にあります資料の参考資料というところに、前回の委員会でいろいろご指摘をいただいた中で、周辺の自治体との比較ということで質問がございましたので、それを参考資料ということでまとめておりますので、参考資料の方についてもご説明いたします。

今回、目標指標をエネルギーということで変えましたので、23 区も含めた周辺の都内の自治体、最近の計画でどのような指標を使われているかということをもとめたものなんですけども、目黒区とか、東京都とか、足立区とか、こういったところは環境基本計画や温暖化対策推進計画の中で、CO2 だけではなく、電気とか都市ガスあるいはエネルギー消費量を指標に使っているところが出てきております。

それから次の 2 ページ目なんですけど、周辺市での CO2 排出量の比較ですが、小金井市の場合、いつも使われている比較の市、周辺市というのがございます。それには武蔵野市、昭島市、国分寺市、東久留米市、多摩市ということで、比較的、都市の規模が似ているということから選ばれているということで、これらの市を選んで比較したものです。前回、ひとりあたりのエネルギー消費とか、そういったもので、周辺市の中で小金井市のおかれているポジションを見たいというご質問がございましたので、それを作成して参りました。図 1 でご説明いたしますと、小金井市は青い大きな円、円というか丸で作ったグラフなんですけども、1 番上が武蔵野市で、その次が小金井市です。大雑把に見ると、上から 2 番目か 3 番目くらいのところにきています。武蔵野市がこの家庭部門のひとりあたりの CO2 の排出量では 1 番多いんですけども、その次くらいに小金井市がきている、ということで家庭部門におきましては、比較的、贅沢にということではないんですけども、多く CO2 を排出する方に位置しております。ちなみに 1 番下になっているのが昭島市になっています。

その次に 3 ページ目もご覧いただきますと、図 2 でございます。今度は総排出量ということで、家庭部門だけではなくて、産業、運輸、その他の業務とか、そういったものも入れて全体の排出量を、ひとりあたりで見たものなんです。これは産業がないとか、業務部門が小さいとか、そういったことによりまして、値が下がります。このため、小金井市は産業の排出量が少ない、で、業務部門も小さい、ということで、これで見ますと 1 番下になっており

ます。先ほど、家庭部門では昭島市が1番下になっていたんですけども、総排出量では昭島市が上の方にきまして、小金井市が1番下の方にくるといようなかたちで、ひとりあたりで見ますと、かなり構造の違いが明確になってくるんだなということで、参考にお付けいたしました。

それから最後11ページは、森林の吸収量ということで、これは本当に木が吸収する量を、多摩地区の市のレベルで見たものなんですけど、やはり森林の多い八王子や、青梅市、あきる野市といったところは、森林における吸収量が大きいということが分かります。ちなみに、小金井市の場合は、この1,000トンCO₂という単位なんですけども、そこに出てこないという状況になっております。

それから、ひとつ説明が不足してたんですけども、東京都で温室効果ガスの削減目標25%っていうのは変えないということなんですけども、何故変えないかという、1ページ目の枠の中に注として書いておりますけども、CO₂ベースでは電気の排出係数の低下によって25%が達成されるとしている。ということで、今のところ電気の排出係数が上がっているんですけども、いずれは下がってくるということで、CO₂の、電気の排出係数が下がれば、25%が達成できるのだという形で、この目標値、温室効果ガスの目標値は変えないということです。これと同じように、小金井市も27%の目標値を変えないで、CO₂が下がるということに期待しているという状況でございます。資料1につきましては、説明は以上でございます。

高橋座長 はい、ありがとうございます。数値目標についてということで、資料1と、それから参考資料についてご説明いただきましたので、ここでご意見なりご質問がありましたらどうぞ。

犀川副座長 いいでしょうか。今まで、炭酸ガスの排出のトンという単位でやってきたんですけど、こうやって急にテラジュールなんていうふうなものに変わったんで、その理由っていうのは一言でいうとどういうことなんでしょうか。

サンワコン エネルギーの消費量が減っているにも関わらず、二酸化炭素の量が増えてくるということなので、直接的に削減してるのはエネルギーなわけですね。で、エネルギーを削減してるにも関わらず、二酸化炭素が増えてるということで、説明がつかないということで、エネルギーをいっそ指標にした方が省エネの努力だとか、エネルギーの効率化の努力が、表れてくるということで、エネルギーを指標にしましょうという考えです。

犀川副座長 二酸化炭素が地球の温暖化とはあんまり関係ないという風なこととは関係ないんですか。

サンワコン いえいえ。エネルギーは下がると、で、下がったことはそれで評価しましょう。ただ、そのエネルギーはいずれCO₂に換算出来ます。その時にCO₂がどうなったかということは、その時のCO₂の排出係数によって大きく変わりますので、それはこれから10何年先の排出係数を見てみないと分からな

いっていいことですね。

犀川副座長 電気の使用量で二酸化炭素の排出量を計算できるっていうのは発電の時に発生する二酸化炭素っていうことですね。

サンワコン はい、それはそれで計算するんですけども、ちょっと評価しにくい。上がったったり下がったりするので評価しにくいということで、評価はエネルギーで行いましょう。で、その時に二酸化炭素に換算するんですけども、その時の排出係数で換算しますと。

犀川副座長 私、個人的には二酸化炭素で温暖化するなんてことはあり得ないという風に思ってるんですよ。もともと昔っからですけどね。ええ、本当、あり得ないという風に思ってます、今度のエネルギー消費のテラジュールの方がよっぽど理にかなっていると思ってます。以上です。

大貫委員 今、ご説明いただいた資料3ページのところ、今のジュールの話のところ、これは、間違いかと思うんですけど、メガ、ギガ、ヘキサと言ってたんですけど、たぶんヘキサとテラって逆で、ギガの次がテラで、テラの次がヘキサですよ。

犀川副座長 どこですか。

荻原副主査 3ページの一番、上段。

大貫委員 上の枠で囲われているところ、単位の話なんですけど、メガ、ギガ、次テラですよ、で、ヘキサですよ。ここは、ちょっとこれは間違いかなと思って。

それで、この目標値のところ東京都全体として、2000年度から2010年度で10%、毎年1%ずつ削減されたので、東京都のはそれで2020年までにマイナス20と。その場合、1年あたりマイナス1%っていうのを適用して小金井市でもこれでいきましょうっていうことなんですけども、4ページの小金井市におけるエネルギー消費量の推移を見ると、2000年は100とすると、2010年で96なので、東京都全体のマイナスほど、マイナスになってない数字になっていると思うんですね。にもかかわらず、そのマイナス1%で目標を作るということになると、この後かなり小金井市としては頑張らないと数値を、目標達成っていうのは厳しくなると思うんですけど、そのへんの考え方というのは、それでよろしいんですかね。

サンワコン はい。

大貫委員 まずひとつは小金井市の、この基準で100から96になったんで10年間でマイナス4%ですよ。それなので、4%というかマイナス4ポイントなので、それを伸ばすっていうやり方もあるかと思うんですが、その辺のところはどういう風に考えているんでしょうか。

荻原副主査 事務局です。確かに東京都が減らしている割合と、小金井市で減っている割合っていうのは違うんですけども、小金井市も東京都の中にある一自治体として、同じぐらいやはり責任分担分を減らしていけないだろう

うということで、同じように1%という設定をさせていただいております。これを見てしまうとやはり、小金井市の方が減らし方は少ないんですけども、じゃ、これに沿ってっていう風にやっけてしまいますと、小金井市だけ何甘いこと言ってるんだと、言われかねない計画になってしまいますので、その辺は、東京都に含まれる一自治体としての責任分担分を考えて同じような割合で減らしていきたいと考えております。

高橋座長
大貫委員
高橋座長

よろしいですか。

はい、分かりました。

はい。ほかにどうでしょうか。参考資料の方見ていただくとあれなんだけど、東京都からそういう、見直しの基準としてこういう方向に切り替えたいっていうことで来た訳ですよ。これ環境省もそういう方向なのか。要するに、国の指針でもある訳か。指針っていうか考え方もそうなんですか。東京都だけか。

サンワコン

はい、環境省の方からは目標値をエネルギーに換算するっていう考え方は示されてないです。環境省からはそういう風な方針は出して、出されてはなないです。でも、各自治体レベルでは、関西の方なんかにおいても排出量を、CO2ではなくてエネルギーを指標にするっていうような方向には出ています。

高橋座長

だいたい、そういう方向になっているってことね、全国的に。

それと、これ東京都は実施しているとか参考資料の1ページに載っていますよね。この温暖化対策の行政指針として作っているのは、郊外、東京都下だと三鷹と日野の3市ですよ。小金井市は非常に早くて平成22年に1回目やっているけど、これ何か理由があって小金井市は率先してやりましようってことになったのか。遡った話で恐縮ですが。すごい珍しいことだから。

荻原副主査

その当時ですね、国交省の方の補助金で、先導的都市計画の関係の補助金というのがありまして。あと、その当時、緑の基本計画という計画の改定も絡んでいたんで、じゃあ抱き合わせでやることによって補助金を活用できるんじゃないかということで、この地域推進計画と、緑の基本計画を抱き合わせて補助金申請して、作ったという経緯がありますので、他の自治体よりは若干、先導的ということで早かったかと思えます。

高橋座長

要するに、こういうことは市民の方々は本当にあまり知らないんで、多分。だからこういうのを、市として努力してるとPRする、先進的な自負っていかね、そういうことをぜひ、行政としてアピールして欲しい。

木下委員

すみません。さっきの環境省のことなんですけれども、以前は地球温暖化、地球温暖化防止国民運動とってチャレンジ25キャンペーンというのをやっていたんですけれども、3月26日の水曜日に、そのキャンペーンを変えまして、Fun to Shareに生まれ変わるんです。で、Fun to Shareってどういったものかっていいますと、皆でシェアして低炭素社会へ、っていう風にな

ってまして、目標に向けて我慢しながら必死に頑張るのではなく、毎日を楽しく暮らしながら、低炭素社会を作ろうという発想で動き出しているっていう風にネットで見ました。ですから、以前の 25、25%っていうのも、環境省としてはたぶんちょっと時代と合わなくなったから、こういう風になってきたのではないかと、私は思いますけれども。

高橋座長 その辺は事務局どう。

荻原副主査 それもやはり、その 25%という当初、国が掲げた目標に関しましては、その当時の政権の民主党政権、鳩山首相の時に掲げた目標だったんですけども、やはりそこからまた政権交代があって、自民党が今、政権を担っていますので、そういう関係で目標自体が見直されてきているというところはあるかと思うんですけれども。そのまま、民主党政権の 25%を推し進めていくっていうところから発想の転換はきているのかと思うんですけれども。なので、今、政府目標って、そんなに高くないですよ。

塩野委員 すみません、ひとつよろしいですか。東京都さんのいわゆる目標設定に見習って削減目標立てられるっていうことですが、一応、東京都さんの方の見ますと、具体的にどういう対策をやるかまでがもう書かれておりまして、その中に、キャップ・アンド・トレードやるとかそういうことも書いてあるんですよ。で、小金井市さんとして独自の対策を考えなくちゃいけないんですけども、先ほどのお話ではないですけど、結構、内容的には結構大変なのかな、というちょっと、気がいたしました。おそらく、東京都がこうやるってずらずらっと並べたものすべて同様にやらないで、やっぱり小金井市さんとしての特性で家庭が多いわけですから、対策をしなくてはいけないっていうところでは、結構大変なのかなと。頑張らんなくちゃいけないのかと思います。

高橋座長 今のお話は、重点対策との関係もあるのかな。

荻原副主査 そうですね。それでは、その目標を達成するためにどうしてかなきゃいけないかというところは、この後の重点対策のところちょっとお話をしていきたいとしたいと思いますけれども、とりあえず、今、目標数値の設定というところで、東京都に準じて年間 1%削減で 2020 年までに 14%でいかがでしょうか、というのをご提示させていただいております。

小野委員 小金井市のエネルギー消費量、家庭部門で 67%ということと、電気の二酸化炭素排出係数というのが大きく変動する現状を考えれば、東京都に関係なく、小金井としてもエネルギー消費量を削減目標に変換するっていうのは、妥当じゃないかと思うんですけど。

高橋座長 今のはご意見ですね。参考意見。

信山委員 ちょっとよろしいでしょうか。今に、関連しますと、基本的にこの目標っていうのは、通常であれば達成出来る目標の少し、若干上目の目標を立てて伸びしろを作って、しかし現実に近い数字を作るんですけれども、基本的に

は、目標を前提として達成できるかどうかというのあんまり考慮しないで、ほかと並ぶことを重要視されるのかどうかというの、そういう傾向にあるということなんでしょうか。ほかの自治体に合わせなければいけないという事情があるとすれば、そういった意味合いなのでしょうか。と、言いますのは、この後いろいろな目標を達成するための施策っていうのが出てこられると思うんですけど、私の主観でありますので、皆さん違ったら申し訳ないんですけども、これだけではここまで絶対に達成出来ないと私自身は思ってるわけなんですけれども。そのへんのあたりはどう思われてるのかな、っていう。ちょっとお聞きしたいなって思うんですけども。

荻原副主査 確かに、目標数値としましては、現状を考えると厳しい数値設定だとは思いますが、先ほどもご説明したように、じゃあ、小金井市の実情に合わせてというところではいきますと、やはり他市と比べて手ぬるいんじゃないかというようなことにもなりかねません。数値としては確かに現実的ではないかもしれませんが、ただ、その目標に向かってやっていくと。そういう中で、この後、その目標達成のためにどうするかということで、重点対策等を出させていただいております。この対策だけでは計画達成出来ないんじゃないかと、いうようなところもあるかとは思いますが、この重点対策を進めていく中で、出来るだけ目標に達成出来るように、どうやったらこの重点対策を周知出来るのだろうかとか、どうやったらもっとたくさんの人にやってもらえるんじゃないかというのを、やりながら考えていきたいと思っております。

信山委員 分かりました。

高橋座長 あんまりリアリティのある目標じゃなく、ちょっと高めっていうそういう兼ね合い、難しいよね。

荻原副主査 そうですね。数値的にはちょっと厳しいところはあるかと思うんですけども。

高橋座長 でもまあ、いかにそれに向けて市民の方々の協力を得て、目標に向けてやってくかということが重要なんで、努力目標っていうか。そういうの、設定の仕方は、次の重点対策にも関係しますんで、そちらの方に議論に、そこに移りたいと思います。じゃあ一応、計画目標についてはこのような方向で進めるということでよろしいでしょうか。はい。どうもありがとうございます。

(3) 重点対策について

高橋座長 それじゃあ、議題の3番目、重点対策についての資料2の説明に入りたいと思います。お願いします。

サンワコン それでは、資料2の重点対策についてご説明申し上げます。今回、前回は重点対策のさわりと言いますか、こんなことを考えていますというのをご説明申し上げますけれども、今回はそれをもう少し肉づけして、こんな

ことを考えておりますというのを、お示ししております。で、重点対策としましては、まず 1.1 で家庭の省エネ徹底促進というのがまず 1 ページ目にございまして、それから、6 ページ目の 1.2 として太陽光発電機器の購入の促進。それから 7 ページ目の 1.3 として、自動車からの CO2 削減。それから 8 ページ目の二酸化炭素排出係数の低い電気の購入。それから 9 ページ目の 1.5 の大きな事業所の対策。それから、1.6 緑化の推進という、こういった項目からなっております。

で、その内の 1 番エネルギー消費量の多い、家庭の省エネ徹底促進について、ご説明申し上げます。前回も少し見える化というお話をさせていただいたんですけども、見える化の機器をどうするかということですね。もうしばらく経ちますと、あと 2、3 年経ちますと、今の電力計がスマートメーターというメーターに切り替わるということもございまして、見える化がもう間もなく実現しそうだということです。見える化による効果によりまして、省エネを促進しようという形で作っております。で、前回も、色々と、省エネに取り組んでもその結果がどうなっているのかが、中々具体的に分かりにくいということもございましたし、前回の報告書では、こういう行動すると、二酸化炭素がこれだけ減りますという直接的な言い方で書かれていたんですけども、それだと確かに、エネルギーから CO2 に変わる過程が分からないということで、もう少し、具体的な指標を入れた形で説明する必要があるだろうということで、電気については東京電力のでんき家計簿、ガスについては myTokyoGas に示されておりますような形で、各家庭のエネルギー消費量を月別で見ることが出来るサービスを紹介しております。これらのツールを利用いたしまして、日々の省エネ行動を推進するための指標として、これを見ていくということをご提案しております。あと 2、3 年するとスマートメーターに切り替わるので、もっと細かい、リアルタイムに電力消費量を確認することが出来るようになりますので、例えばエアコンとか、炊飯器のように、単体あたりの電気消費量の大きいもののオン、オフによる、電気消費量の変化を見ることによって、どれぐらい電気を使っているのかというのがリアルタイムに見えるように、もう間もなくということですね。その活用に期待したいと思います。

それで、見える化の効果ってということで、確かに自分の家庭のエネルギーについては見える化によって分かってくるんですけども、じゃあ、自分のエネルギーの使っている量というのは、ほかの家庭に比べてどうなのかというようなことを知ることによって、省エネ行動の励みになるということです。例えば、表 1 につけておりますが、それぞれの世帯数によって電気代、ガス代、灯油代、ガソリン代、こういったものがどういうぐらいで使われているのかというようなものと、もっと自分の家庭のものと比較することによって、使い過ぎだとか、ほかのところでは逆にこんなに使っているとかが

なことが分かってきます。日常生活におけるエネルギー消費量の削減ということで、自分のポジションを知り、じゃあどういう風にすれば具体的に省エネになるというようなことについて、例えば、家庭の省エネハンドブックのようなものを家庭で出来る省エネ行動の例として活用することを提案しております。ここに、先ほど申しましたように、例えば、冷房の設定温度を1度下げる、1度上げるというようなことでやりますと、どれくらい電気の消費量、キロワットアワーでどれくらい変わって、それが金額にするとどれくらい変わってそれがCO2になるとどれくらいのCO2になるか、というようなかたちで直接的な電気やガスの消費量の削減というものが分かりやすく表になっております。こういったものを参考にして、どれだけ削減できるかというようなことを、認識していただけるということが、重要かと思えます。で、実際に次の具体的な対策につきましては、こういった指標をもとにいたしまして、どういう省エネルギー行動で、削減出来るのかというようなことをきめ細かく書いていく予定でございます。

それから次は、省エネ製品への買い替えの例ということで、例えばエアコンで10年以上前のエアコンを、今の最新型に変え他事例です。近年の製品は、トップランナー方式ということで、1番性能のいいものに基準を合わせて製品を作っておりますので、どんどん省エネが進んでおります。例えば、10年前のエアコンに比べまして、2014年ぐらいのトップランナー方式の製品になりますと、電気使用量で3分の1ぐらいに下がっております。この下の表3にありますようなかたちで、エアコンですと削減量で422キロワットアワーぐらい、ということになります。冷蔵庫ですと、10年以上前の平均的な冷蔵庫から2014年のトップランナーのものに変えますと、電気使用量が7割削減できるということで、非常に大きな削減になっております。こういったものを買えば、投資もかかるんですけども、それは何年で回収できますよ、というような解説も付けたような形で、こういった説明をしていきたいと思えます。それから、洗濯乾燥機の場合ですと、水冷式と空冷式とヒートポンプ式があるんですけども、ヒートポンプ式の場合が、電気使用量が非常に少なくなっています。それから食器洗い乾燥機ですけれども、これは給水だけで乾燥もさせます。電気で乾燥するんですけども、そこに給湯ってということで、給湯のガスを使って乾燥させるようなかたちになりますと、トータルとしての使用量が、エネルギーの使用量が少なくなるとか、そういったことを解説していきたいと思えます。

それから、次の4ページ目は消費電力の削減効果が大きいと思われるようなもので、表6は消費電力が1キロワットを超えるようなものから順に説明をしております。1番消費電力が大きいのはIHクッキングヒーターの3口のもの、それから電子レンジ、アイロン。アイロンなんかはそう頻繁に使うものではないんですけども、あと電気炊飯器とか、浴室乾燥機とか、こう

いった順番で電力の消費量が大きくなっています。

それから次に、5 ページ目で省エネ効果の高い機器の設置ということで、給湯機ですと、CO₂ を使った、CO₂ を冷媒としたヒートポンプ式の給湯器、エコキュートという、商品名ではエコキュートになりますけども、そういったものとか、それから潜熱回収型給湯器エコジョーズ、それから、家庭用ガス、コージェネレーションシステム、エコウィル、こういった最新の機器がいろいろ出ておまして、こういったものを使うことによって、トータルのエネルギー消費量を減らしていきます。あと、燃料電池。まだちょっと先の話になりますけど、一応商品化されてるものとしてはエネファームがございます。それから高効率コンロ、それから保温性の高い浴室、浴槽、それから温水便座の方も貯湯式と瞬時式がありまして、瞬時式の方が、消費電力が約5割ぐらいになっています。それから、住宅の断熱効果、こういったものは新築、あるいはリフォームの時でないとは出来ないんですけど、そういうリフォーム時なんかには、こういったことも考慮して設備をするというようなことを書いていきたいと思えます。で、これで実際、実施率がどれぐらいになるかということによりまして、市全体の削減量が決まってしまうので、そのあたりの実施率ですね、どれぐらい協力してもらえるかということについての見込みが、非常にこれから難しいところだと。

それから、太陽光発電なんですけども、これは今、補助制度がございまして、これも前回ご説明したんですけども、今までの補助制度で1,546キロワットぐらいの補助の実績がございまして、これで1.5メガソーラーに相当するものがすでに動いています。これを継続していくということで、導入の促進を図っていく。それから、これは事業者のほうにも適用したらどうかということですので、これも拡大を検討します。ということになっています。それから未利用の屋根の活用ということで、これは自分では投資出来ないけども、屋根を貸して太陽光パネルを置いてもらうというような例がございまして、こういった利用可能な屋根についても、提案をしてはどうかと。提案をして、増大を図っていくということでございまして、これは太陽光発電の設置場所を探してる事業者などにつきまして、クール・ネット東京がホームページで情報提供しておまして、こういった情報に加えて、市の方でこういった屋根を提供したいというようなことがありましたら、こういったところへの登録もしていきたいということでございまして。

それから次の、1.3の自動車からのCO₂の削減なんですけども、これは前回もご説明しました通り、運輸部門のCO₂の削減が進んでおまして、これをさらに進めるということで、小金井市の場合、非常にコンパクトな街になっておりますので、市内の移動には公共機関とか自転車の利用でほとんど、市内だけであればどこにでも動けるといふ形ですので、自家用車に依存しない街を作るといふことです。これからは施設配置とか、そういったものも考

えて、公共交通を利用できる動線に沿ったような形の施設の配置が望ましいということで、こういった街づくりも考慮するということでもあります。それから公共交通の利用の促進ということで CoCo バスの利用の促進、自転車利用の推進ということで、自転車ではほとんどのところに行けるわけですが、さらに小金井市、小金井公園とか、鉄道駅を中心としたサイクリングロードの指定とか、そういったことで自転車の利便性を高めるということ。それから、サイクルシェアリングサービスということで、貸自転車ですね。自転車の、貸自転車のポートを作りまして、その中で自由に借りて乗る、返す、ということで、こういった自転車利用を推進していくということが、提案されます。

それから次の 8 ページ目で、自動車利用による二酸化炭素の排出削減ということで、まずひとつは、自家用車の低燃費化ということです。これはガソリン価格の高騰によって自然と自動車離れとか、低燃費車への移行が進んでいますけども、市内の自動車保有台数はそれに合致したようなかたちで減少を続けている上、乗用車が減少して軽自動車が増加するという、ダウンサイジングが進んでいます。今後は、国土交通省が推進しております超小型モビリティ、この下の方にある新しく開発されている自動車なんですけども、こういったものを使った、市内の交通ですね、そういったものと合わせてダウンサイジングをより一層、進めるということにより、直接、二酸化炭素を減らすというかたちに繋げていきたいと思えます。

それから 2 番目はカーシェアリングの普及です。カーシェアリングというのは既に事業として行われているんですけども、今後、高齢化が進み、運転機会が減少するというので、自家用車の保有そのものをやめて、必要な時だけ車を利用したいという考えが多くなると思えます。そのために買い物とか通院とか、そういった短距離利用時のカーシェアリングの利用を促進しますということです。そのためには、カーシェアリングのステーションを数多く配置しないと、車を借りるために遠方まで歩くというのが、難しくなりますので、いろんな場所にカーシェアリングのステーションを作っていく必要があるかと思えますので、面的に整備して普及を促進するというのを、考えております。

それから、次に 1.4 として二酸化炭素排出係数の低い電気の購入ということです。今、事業者につきましては電力の自由化ということで、平成 12 年から順次、規制が撤廃されております。事業者につきましては、二酸化炭素の排出係数を削減するために排出係数の低い電気を購入することが出来るようになっていきます。で、こういった情報を市としても積極的に提供して、事業者からの排出削減を支援していきます。これは直接的に CO2 の排出係数の低い電気を使うことによって直接的に CO2 を減らしましょうということですね。で、これが 2016 年からは一般家庭においても同じように、電力の

購入先を選択することが出来るようになりますので、これも二酸化炭素の直接的な削減という意味で意識啓発を行っていきます。ただ、ここで問題なのは二酸化炭素の排出係数が低い電気というのは、一般的に単価が高くなりますし、量も限られたものになってきますので、思うように購入できるかどうかという問題は、ひとつ起こります。

それから9ページ目の、大きな事業所の対策ということで、前の計画にもありましたが、小金井市の中にある3つの大学と研究機関、東京農工大、東京学芸大、法政大、情報通信研究機構、この4つですけれども、いずれも原油換算でエネルギー消費量が1500キロリットル以上の第1種か第2種の指定事業所になっております。これは毎年、エネルギー計画書というものに基づいて削減義務を持っています。この指定された事業所につきましては、2010年から2014年の第一期計画の間に8%の削減義務を持っております。今度第二計画期間ということで、平成27年、来年からですね、平成31年、2019年までの間に17%の総量削減の義務を負っております。従いまして、この業務部門の大きな事業所の削減については、政府並びに東京都の規制により、削減は進んでいると思われまますので、市としては、これらの事業者との連携を進めて、対策を進めていくということになると思います。それから、業務部門のあと大きな排出を行っているものとして、市役所がございまして、市役所もすでに温暖化対策の実行計画の市役所版というのを作成して、取り組んでおります。今の計画は平成19年に策定して、第一実行機関が19年から22年ということで、第一期が終わりまして、平成23年3月に、第二実行計画というので、23年から26年、今年までの計画を作成して、今実行中ということであります。18年度の温室ガスの実績値が4,685トンだったんですけども、26年までにこれを10%削減して、4,215トンにすることになっております。ちなみに平成21年の実績値が、4,228トンですので、あともう少しで26年の4,215トンになります。で、この後、第三実行計画というのが作られますので、それで市役所の方の削減は計画通り進めば、その計画値を目標値ということで、掲載していけると思います。

それから1.6で緑化の促進ということです。これは植物の二酸化炭素吸収とか遮蔽とか蒸散による、温度低下の効果、そういったものがありますので、温暖化対策のひとつとして、緑化の推進、あるいは農地の保全、そういったもので全体的な温度を下げて省エネ効果を高めるというような取組を推進していきたいと思っております。

重点対策としては、以上でございます。で、これをさらに肉付けしてどれぐらい、それぞれの項目で削減できていくかっていうのを積み上げて、14%の削減に繋げていくというかたちになります。よろしくお願ひします。

高橋座長

はい、どうもありがとうございました。それでは、この資料の2についての、ご質問なりご意見なり伺いたいと思ひます。

大貫委員

じゃ、よろしいでしょうか。1 ページ目の見える化のサービスのところでございますが、先ほどご紹介ありました、電気のところで言いますとでんき家計簿というのは弊社でやっています。これはぜひお使いいただきたいサービスで、先ほどお話がありました、2 年間分の使用量とかが見られる以外に、今、この後ろの方でお話をさせていただいた機器の買い替えだとか、またその省エネ行動、こういうことをするとこれだけ節電なり、省エネになりますよ、というシミュレーションが出来る機能も提供してます。あとご自宅の電気の使用状態っていうのを、同じようなご家庭と比べてどうかだとか、省エネの上手なご家庭と比べてどうかという比較も出来るようなサービスもありますので、これはぜひ使っていただければ、先ほどの省エネの行動でどのぐらいだとかっていう表だけではなく、実際のご家庭でシミュレーションして、例えば 10 年前買ったエアコンを最新のものに取り換えるだとか、冷蔵庫を最新のものに取り換えるみたいなものをシミュレーションすることでどのぐらいご自宅の電気の節電が出来るかわかります。そういった意味では是非お使いいただければ、意識なり、省エネ行動に結びつくとは思いますが。

あと、ちょっとその後のですね、尚、以下のところでちょっと誤解をされるとあれなので補足をさせていただきますと、2、3 年後にスマートメーターに取り換えるという計画があり、というところですが、これスマートメーターに取り換えが行われると、そのスマートメーターの中でリアルタイムに電力使用量を確認することが出来るような言い方になってますが、そうではなくて。スマートメーターは弊社の方が取り換えをもうすでに始めておまして、東京都は 7 月、この 7 月から実際メーター機を順次取り換えております。で、メーター機って 10 年間の検定期間っていうのがあるので、その検定期間が切れたお客様から順次取り換えてます。で、基本的には 10 年間かかるんですが、それをちょっと 3 年間早めて、今年から 7 年の間に、東京電力の管内のお客様のメーター機はすべて取り換えるという、計画を立てておりますが、そのメーター、スマートメーターというのは、30 分ごとのですね、電気の使用量っていうのを積算しているんですが、それはあくまでも、使用量を確定するための情報です。それをですね、お客様側の方で見るとするには、スマートメーターだけではなくて、ご家庭の方で、お客様側の方でこれを見るような設備を設置をしていただかなければなりませんので、ここに書いてある東京電力の方で無料で取り換えると自動的に、リアルタイムで使用量が確認出来る訳ではありません。あくまでもお客様側の方で、ご家庭の方で意識を持って、HEMS っていう、ホーム・エネルギー・マネジメント・システムって、要は見る機械ですね。表示する端末だとか、スマートメーターの接続だとかっていうことのシステムをご購入いただいて設置をしないと、見られません。そういった意味で、ここは誤解があるとまずいなと思ひ補足させていただきました。今すでにこういったリアルタイムで使用の

状況を見る、省エネナビと言われるシステムだとか、コンセントのところ
に小さな機械を取り付けて、例えば、エアコンのコンセントを繋ぐとか冷蔵庫
のコンセントを繋ぐことで、それぞれの機械ごとの使用量が見られるような
商品もあります。今の時点でも、すでに日々、リアルタイムでの使用の状況
を機器ごとに見ることは可能で、こういうところに非常にご関心があるご家
庭の方は、そういうのをご自身で設置してるところもあります。特に設置す
るには配線とかしなければいけないので、既設のお客様というよりも、新し
い自宅を建てられた方ですね。あとは、太陽光を付けられた方が付けてると
思いますので、そういう意味でちょっとこのところは、スマートメーター
だけではこういったリアルタイムの機能っていうのは提供されないってい
うことを補足させていただきたいと思います。以上です。

高橋座長 はい。いずれにしても正確にそれを記述してもらってということと、もう
ひとつは、そういうサービスをなさっておられるんだけど、それは無料じゃ
なくて各々家庭で自己管理するためには、そういうのが必要ということ。

荻原副主査 はい、では次回、素案をお示しする際にこの書き込みのところにつきまし
ては事前にご面倒をおかけしますけれども、大貫さんとサンワコンさんの方
で調整していただいて、中身について齟齬がないかどうか確認していただ
きたいと思います。

高橋座長 これは東電さんだけでなく、東ガスさんも、そういうところ記述の部
分は関係すると思うんで、運輸部門も関係するから、ぜひ聞いてください。

荻原副主査 せっかく東ガスさんからも来ていただいているので、この myTokyoGas と
いうのがどんなものなのか、簡単に説明していただけますか。

塩野委員 基本的には同じですね。弊社のホームページを見ていただきますと、ご家
庭でお使いいただいているガスの使用量、これは検針票があるわけですが
けれども、それを見ていただいて、実際に、どの器具がどれだけ使ってる
という数字が出るわけではないんですけども、こういうお使い方をすれば、
これだけガスが減るといような、実際にお役に立つような省エネの手段が書
いてあるところに行きつけます。あとは、前年度に比べてどれだけガスを減
らすことが出来たとか、そういうことが簡単にご確認出来るというものです。

高橋座長 解説書みたいなものなんですか？その前の、何だっけあれ、でんき家計簿
なんかも同じなんですか。

塩野委員 実際には、実際の使用の実績が分かると言った方がいいですかね。ガスの
大貫委員 でんき家計簿もですね、見ると、今月何キロ使っていくらでした、ってい
うのが、数字とあとグラフですね。月々と前年で比較ができて、今月はち
よっと多いなというように。

犀川副座長 それは全部、自分のパソコンのあれに出てくるの？

大貫委員 パソコンです。はい、パソコンと、あと今スマホでも対応してますので、
スマートホン、携帯。

小野委員 今のお話ですと、使用量がポイントですよ。

大貫委員 そうですね。

小野委員 そうするとこの、いちばん下のこの見える化の表の中に、今金額なんですよ。

大貫委員 ああ、確かに。

小野委員 ここに使用量をね。

大貫委員 そうですね。この金額というのは、当然その単価、値上がりがあったり

小野委員 単価、プラス使用量になって。

大貫委員 今は燃料費だとかの上がり下がりです。毎月毎月変わってますので、あんまりこの金額というよりも使用量をですね。我々も。

小野委員 その方が一般市民はね。検討するうえで、金額よりもその方が有効なんじゃないかと思うんですよ。

塩野委員 ただ、こういうことするとこれだけ例えばガスが減ると、いうところはですね、お値段を書いた方がインセンティブになるんですね。

大貫委員 気になるところは金額だと思うんですよ。だから並列で書いた方がいいんですよ。

高橋座長 はい、いかがでしょうか。ひとつだけちょっと注文なんだけど、この計画は誰のために作っているかということで、市全体が対象なんだけど、市民の方々に見ていただくというのがすごく重要なんですね。そのための工夫は、この中身でいいのかどうかということから見ると、この重点対策は、市民ひとりひとりの方々が各家庭で努力されること、あるいは事業所で努力すること、いうことを語っている訳ですよ。で、それにしても、たった2行で6項目の説明がないまま、何故今回この6項目になったかということが書いてないでしょ。要するに重点対策の下の2行ね。今回は家庭の省エネの徹底促進と、6ページの太陽光発電、それから自動車。要するに太陽光の方は家庭と事業者に関係しますよね。で、1番目は家庭、それで2番目は家庭と事業所、それから3番目は運輸部門。それから、1の4は業者。事業所と、それから各家庭。5番目が、事業所関係。大規模な事業所関係。それから緑化は街づくりの関係ですよ。で、何故この6項目を重要項目として挙げたかということの説明をね。前段でしっかり書かないと、なんでこれが挙げてきたかということが分からないんじゃないかしら。で、これは僕の個人的な意見なんで、委員の皆さんのご意見を聞きたいんですが、たぶんそれは、資料1で説明された二酸化炭素の排出量での運輸部門と民政部門とか各家庭部門で、そういう説明がありましたよね。で、たぶんこれ集約すると各家庭に関係するのはだいたい二酸化炭素という半分ぐらい影響してる。で、事業所の場合も半分ぐらいかが二酸化炭素。で、もうひとつのエネルギーで言うと、各家庭がだいたい3分の1強ぐらいが影響してるでしょ。で、そういう説明をした上で以下の6項目が、こういう関係で必要になんたっていう

のを、ちゃんと書いてあげた方が、丁寧かなと思うんですよ。そうすると今の、東電さん、東ガスさんの、各家庭がこれだけ努力をすれば、それが10万人集まったらこれだけの力になるんだな、っていうのが分かるはずなんだよね。そういうのを市民の方に知っていただくことが大変重要だと思うんで、そういう書き出し、対策、重点、計画の目標の設定、重点対策を何故6項目挙げたかっていうことの説明をちゃんと頭に書いていただきたいな、と思うんですけど、いかがでしょうか。

荻原副主査
犀川副座長

じゃあ、次回委員会に案をお出しする時にはこの分を少し書き足します。高橋先生にまずね、叩き台を作ってもらって、で我々が叩いて、いいもん作ったらいいんじゃないですかね。

信山委員

すいません、じゃ、ひとつちょっと。書き方なんです。7ページのこの自動車のCO2削減の(1)のところ、自動車、自家用車に依存しない街を作るの2行目っていうんですかね。これちょっと私がかんないだけなんですけど、今後は中心部への施設の配置や、中心部への公共交通の動線を考えたというのを読むとですね、駅前に施設を集中するように読み取れちゃうんですけれども、どちらかというとコンパクトシティという、各地区、各地区でっていうんですかね。それで、特色も含めてそこで、例えば、歩いて完結するようなそういうを作るのもコンパクトの話かと思うんですが、ちょっとこれだと駅、駅に集中すると読み取れるもんで。

荻原副主査

それでは、このへんの書き方につきましても、ちょっと検討させていただきたいと思います

高橋座長

これ全体の構成でいうと、1の1については説明が非常に多い、これは材料がそういう風な材料になるのかかんないけど。1の2も、まあまあ。1ページか。1の3も1ページ。1の4は3分の1ページぐらいか。1の5が半分ぐらいで1の6は少しだけ。それ、こういう構成でいいの？ そういうこと言っちゃいけないかな。たぶん1番最後の緑化の点は、都市計画との関係があって、調整が必要ですよ。説明をもうちょっと丁寧に書いた方がいいんじゃないかな。だって、緑のマスタープランとの関係とかいうのもあるんでしょ。多分、向こうの方は目標値が上がってるんじゃないかな。どうですか。同じ課だよ。

荻原副主査

はい。

高橋座長

環境部の仕事じゃない。なんつって、それを言っちゃいけないか。ともかく何か、記述のバランスというか、1の1だけ多くてほかのところはさらさらって書いてあるような気がしてしょうがないんで、もうちょっと丁寧に。

要するに家庭の努力。それから、事業所、それから運輸部門の努力。それから、都市構造との関係とかね。大きく分けるとそんなところかな。あと大学、大規模な事業所の。いかがでしょう。

小野委員

資料1の3ページ、8ページでしたかね。ジュールの説明ありましたね。

エネルギーの単位、単価だと。今、小金井市の家庭では、電気が1番多いということなんで、電気の単位ワットの説明とかね。それからジュールとワットの関係とかね。そのへんをちょっとここに追加してもらった方が、市民としては興味持ちやすいんじゃないかなと思うんですね。それに出来ましたらカロリーも入れてあるといいですね。

犀川副座長 今回の資料見ると単位が変わってるびっくりしたんですよ。あれ、なんて。CO2のトンがね、このエネルギー消費量に変わったんで。

小野委員 これまではね、CO2で進んできたわけですよ。だから、こういう単位っていうのはあんまり重く受け止めてなかったかもしれないんですけどね。

犀川副座長 こっちの方がはるかにいいと思うんですけど、私はね。

荻原副主査 それの補足説明につきましては、追加して作成したいと思います。

高橋座長 なんかね、用語の解説みたいなやつをもっとね。

信山委員 よろしいでしょうか。資料2の8ページですね、自動車による二酸化炭素排出削減を目指すということの、(3)の②のカーシェアリング。カーシェアリングを行うと、削減されるんでしょうかね。そもそも論なんですけど。車を作らないことについては削減されると思うんですけど、車を使ってること自体が変わらなければ、カーシェアリングによって削減されるんでしょうか。

荻原副主査 各家庭で車を持ってそれぞれで運転するよりも使う回数を減らすことにも繋がるでしょうし。

高橋座長 遊んでる車をフルに使うっていう趣旨につながる。

大貫委員 意識の部分みたいですね。やっぱりカーシェアリングすることによって、今もお話のように、車をすぐ使えないっていうと、そういう意味では、ちょっとこれは控えておこうかなと思いますね。あとやはり、自動車自体、新しい自動車を配置できますんで、常に燃費がいい車。ご家庭だと買ったら10年ぐらい乗るじゃないですか。でもこれだと、ある程度そういった新しい、燃費がいい車に出来るだとか、あとは小っちゃい車に出来るだとか。

信山委員 小さい車になるということはあるんでしょうけど、カーシェアリング自体が使ってる車はリースアップされた車が使われてることが非常に多いので、最新車を使ってるってことはほとんどありません。ですから、そうであれば、もうちょっと具体的な説明、意識を改善するとか、そのへんで、無駄を使わないっていう意識を高めるとか、もう少し違うニュアンスで書かないと。これだけ読むと、カーシェアリングで減るのかなと疑問に思ったもんですから。もうちょっと丁寧に書かれた方がいいんじゃないかなと思います。

小野委員 こういうこともあんじゃないですか。家庭1台で、ひとり運転して使うと。カーシェアリングは、別家庭の4人で1台を使う、と。そうすれば、3台分は少なくともガソリン使わないわけですから。

碓井係長 市民の方が車使われるケースとして多いのが、近距離へのお買い物に使

っちゃうとか。あとは行き帰りのお父さんのお迎えに駅まで使っちゃうとかってケースが結構多くて。やはり、カーシェアリングになると、当然ご自身の車じゃないですから、1回ごとにお金かかるわけですよ。さっき意識の問題という風におっしゃってたと思うんですけども、語弊あるかもしれないですけども、無駄遣いをやめて必要な時だけ使うようにする、っていうような意味合いかなとは思うんですけども。

信山委員

そうしますと、買い物や通院などの短距離に使われると似てしまうので、なんか書き方を変えた方がいいんじゃないでしょうか。今言ったようなことに使うのが多くなってることですよ。必要なものだけで。これ気軽に使ってしまうと一緒なんじゃないですか。だから、皆でなるべく車を使わないようにするためにも、どうしても車を利用しなければいけない時だけしか使わないというように、カーシェアリングを利用しましょう、みたいなことを書かれた方が、カーシェアリングのことについてもうちょっと分かりやすいのではないかと。これだと気軽に使っちゃおうみたいなイメージなんで。また、あとは先ほどどなたか言われた、車をたくさん各自が所有するとその製造に伴う環境負荷が高いので、っていうような意味の方が逆に強いのではないかなと思ふんで。そういう意味で書かれたらどうかなと思いました。

荻原委員

はい、ではこの部分につきましても、修正を加えたいと思います。

高橋座長

要するに、交通、運輸関係で言うと、基本的に1番いいのは公共交通がしっかりネットワークされて、自由にいつでも使えるようになって、市民も気軽に乗れると、公共交通がまず優先される。だけどそうはいかない。マイカーにもうこれだけどっぷり浸かった20世紀人は、そう簡単には離れられないと。そうすると、その利用の仕方としてはさっきおっしゃったように無駄な使い方はやめる努力をしましょうよ、と。そのうえで、それをカバーするにはどうしたらいいかという、今のようなカーシェアリングだとか、場合によっては自転車に変わるだとか。1番いいのは徒歩で歩くのが1番いいってことですよ。だからそういう、交通計画、都市交通計画のありようみたいなことになっちゃう訳なんだけど、それはまさに20世紀的都市交通と、21世紀的都市交通は違うということをちゃんと書くとか。そうなるってだんだん難しくなるね。

荻原副主査

現行の計画でもそうなんですけども、1番は、車に依存しない社会を作ると公共交通機関を利用しましょうということで、それでもやはり自動車に乗らなきゃいけない局面がある。で、その場合は、自動車からの排出削減をしましょうということで、エコカーに乗り換えるとか、カーシェアリングを利用するとか、ということなので、あくまでもこれをしましょうというよりは、まず自動車に依存しない世の中を作るとするのが1番なので。

高橋座長

そうですね、はい。

大関課長

ちょっとすみません。私も十分に読み込んでなくて、これを見て思ったん

ですけど、実際これが小金井市でできるのかどうなのかっていうのがあります。で、出来ないものを載せてもしょうがないっていう話になるので、ちょっとこのカーシェアリングについてはペンディングにさせていただきたいと思います。実際ですね、さっきの自転車の促進の中で、サイクルシェアリングっていうのは、聞くところによると何市かで取り組んでるところがあるので、これは、今後、将来的に行える可能性はあっても、カーシェアリングについては、果たしてこれが、実際どこまで出来るのかっていうのもありますので、ペンディングにさせていただいて、検討させてください。

大貫委員 さっきの電気では、電気使用量とか細かく書いてあるんで、ここも車を運転する際に、二酸化炭素の排出量の削減がなるべく少なくするような運転の仕方、例えば、急発進をやらないとか、エンジンプレーキ使うだとか、アイドリングストップや、暖機運転だとかをここに入れるのもいいかなと思います。

高橋座長 小金井市的にはエコドライブの推進っていうことなんですかね。

荻原副主査 実際にはエコドライブの教習会も市民、それから市内事業者を対象に行っているんで、それをより、発展・拡大させていくというようなところを書き込みしたいなと思います。

高橋座長 この計画の冒頭に、小金井市は先進的にやったいたということを最初に書いておいた方がいい。要するに、こういう施策に取り組むのは、都下では最初なんですよ。

荻原副主査 1番ではないとは思いますが、近隣他市よりも、先駆けて作ってはいると思います。

高橋座長 だから、時代先駆な市であるわけだ。自信を持って。はい。ほかにご意見、いかがでしょうか。

木下委員 だから、それをやはり市民にどうやって告知できるかっていうのが1番のポイントだと思いますし、今の車の話も全然知りませんでしたし。ここに来て、こういうことやってたのか、っていうのも結構多いので。多分ほかの市民の方も知らないことが多いので、そのへんの告知の仕方をいろいろ考えた方がいいんじゃないかと思います。

高橋座長 はい。次回、検討委員会の際には、そのへんのご意見をですね、どうやったら市民に広く周知出来るのかというようなところも、ご意見、アドバイスいただけたらと思いますので、次回、よろしく願いいたします。パンフレットなんか作るんだっけ。

荻原副主査 これの冊子版と、あと概要版も作る予定です。

高橋座長 それ、それが分かりやすいのを作ってよね。もう役所のやつじゃなくて。

碓井係長 形式的な話で申し訳ないのですが、これは皆様のご意見をお伺いできればと思ったんですけども、用語が難しいのがあるから、用語解説みたいなものというお話があったかと思うんですけども、作り方として2通りござい

ます。語句が出てくるそのすぐ下に米印かなんかで解説つけるパターンと、あと、巻末にですね、まとめて用語解説みたいなかたちでいわゆる簡単な辞書的なものを付けるパターンがあるかと思うんですけども、どちらがご利用になって分かりやすいものなんでしょうか。

犀川副座長　　もうすぐがいいですよ、ページの下とかね。1 番後ろいっちゃんが見ないそんなにたくさん出てくるわけじゃないから、その都度の方がいいですよ。いっぱい、冊子が厚くていっぱいあるんだったら後ろでまとまってもいいですけど、そんなに多いもんじゃないんで。

高橋座長　　はい。いろいろ工夫すること多いと思いますんで、事務局の方はちゃんとしっかりお願いいたします。今日は注文だらけですいません。ほかにご意見ないようでしたら、時間もそろそろなんで。いかがでしょうか。それじゃあ今日は、以上にて、方向がだいぶ出来たかと思いますが、次回、大変だと思いますけど、よろしくどうぞ。それじゃ、長時間ありがとうございました。

＜ 2. 次回委員会日程について ＞

荻原副主査　　次回、委員会日程についてなんですけども、次回の予定としましては 11 月の中旬から下旬ぐらいで開催したいと考えておりますので、またメールで日程調整の方させていただくということよろしいでしょうか。

高橋座長　　じゃあ、11 月中旬から下旬ぐらいで予定しておりますのでよろしく願いいたします。

どうも長時間ありがとうございました。それでは、これにて閉会。

以上